## 顏を見て、顏を診る

## 国保連合会嘱託 東田 文男

## **COLUMN**

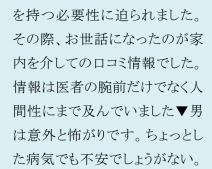
「君、いま何歳 だい? まだ長 生きしたいか い」。13年前、

51歳の時です。ある病院の医者からこんな言

葉をいわれました。悪い病名が 頭をよぎり、その時は医者の言 葉に怒る余裕すらありませんでし た▼医は仁術なり。貝原益軒は 著書『養生訓』で、医者は人を思 いやり、慈しむ心をもたねばなら ないと「医者の条件」をあげてい

ます。その一方で、患者も「よい医者を選ばないといけない」と指摘しています▼良医を選びたい。だれしも望むことですが、これが難しい。そんな時、注目したいのがいわゆる身近にいる女性陣の口コミ情報です▼その情報ネットワークは、地域はもとより他府県の病院まで張り

巡らされていることもあります。子育でや介護などの体験も通して集積された情報は、足と目と耳でかせいだ生きた情報といえます▼定年後、初めて人間ドックを受診しました。予想通り体のあちこちで赤信号が点滅し、「かかりつけ医」



どんな気持ちで医者の前に座っているかを理解してもらいたいと思っているのではないでしょうか。ですから、パソコンの画面ばかりを見て患者の顔を見ない医者は願い下げです。「顔を見て、顔を診る」。まずはそんなお医者さんであってほしいものです。